

学校の風景

「大久保学園」の取組

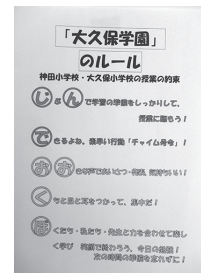
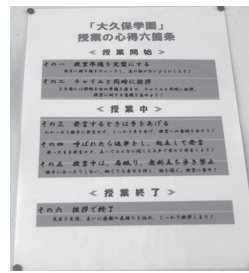
桜区 大久保中学校 教諭 田中 崇子



1 はじめに

本校は平成24年度から「さいたま市小・中一貫教育」推進モデル校として学区内の小中学校3校と連携を図り研究に取り組んできた。確かな学力の向上や「中1ギャップ」の緩和のため、個々の発達段階に応じた指導方法の見直しと工夫改善を行うとともに児童・生徒間の交流行事を深めてきた。平成27年度からはさらに連携を発展させていくために、3校合同の研修体制として「大久保学園構想」をスタートさせた。以下にその内容について紹介する。

の確立だけにとどまらず、生徒の基礎学力向上の促進にもつながった。



2 「大久保学園」の具体的な取組と実践例

(1) 小・中合同行事カレンダーの作成

3校の行事を一つのカレンダーにまとめ、保護者・地域関係者に配付した。

(4) 小・中合同引き渡し訓練の実施

従来各学校で実施されていた災害時の引き渡し訓練を、今年度より、中学生が小学校へ出向き保護者が一度で兄弟姉妹の引き渡しができるよう試みた。小学生が保護者の到着を兄、姉と一緒に待つことの安心感や、1か所で速やかに引き渡しが行われることで保護者からはよい反響を頂いた。



(5) 小・中合同研修会の実施

「大久保学園研究推進委員会」を中心とした合同研修会は情報交換だけにとどまらず、授業参観や各プロジェクトチームによる意見交換を行い共通理解の下で児童生徒の育成につなげることができた。また、全国学力・学習調査や、市学習状況調査の結果を各校で分析し、成果や課題を明確にし、共有するとともに指導の工夫改善に生かした。

(2) 中学生による歯磨き教室の実施

歯磨き週間に中学生（保健委員）が小学校へ出向き、歯磨きの指導を行い交流を深めるとともに歯磨き率向上に向けて成果をあげた。

(3) 授業規律の確立

小・中で授業規律を共有し教室掲示を行うことで授業における徹底事項の統一を図り、積極的生徒指導を定着させた。この取組は授業規律

3 終わりに

「基礎学力向上」には小・中連携が必要不可欠であるとの考えに立ち、「大久保学園」として研修をさらに進めていく。そして、児童生徒のための9年間を見通した取組を通し一層の成果を上げていきたいと考える。